

【背景】

ニセコ町は、人口4,958人(2015年国勢調査)の小さな町に年間約170万人が訪れる観光地である。町では豊かな自然環境が基幹産業である観光と農業の基盤となっていると考え、景観対策や環境政策に積極的に取り組んできた。平成26年3月には内閣府から環境モデル都市の選定を受け、自然環境を守りながら国際環境リゾート都市として成長していくために、2050年度までに1990年度比でCO2排出量を86%削減する大きな目標を掲げ、持続可能なまちづくりを進めている。

一方、ニセコ町は泊原子力発電から30km圏内に位置する。産業基盤である自然環境を次世代に継承していくためにも、原子力発電への依存を減らし、再生可能エネルギーに転換していくことが求められている。

【目的】

ニセコ町の環境政策においてCO2削減の取組みは、化石燃料から再生可能エネルギーへのエネルギー構造を図るものであり、環境モデル都市アクションプランにおいては、「公共施設への再エネ等設備導入」を継続するとともに、「観光分野での再エネ等への推進」「エネルギー転換」「家庭での草の根的な取組み」の3重点分野を中心に事業を展開し、理解促進へとつなげてきた。

今後は、この取組みを進めるとともに、構想段階にある観光と環境の横断的な取組み、交通分野の低炭素化等も含めた行動計画づくりを行い、地球温暖化対策実行計画(区域施策編)で定めたCO2の86%削減に向けて具体的な取組方法まで落とし込み、更なるCO2削減に取組みエネルギー構造の高度化を図る必要がある。そこで、公共施設への再エネ設備導入、観光分野での再エネ等の推進、エネルギー転換、町民一人ひとりの取組みに向けた調査検討事業及び勉強会等を行う。

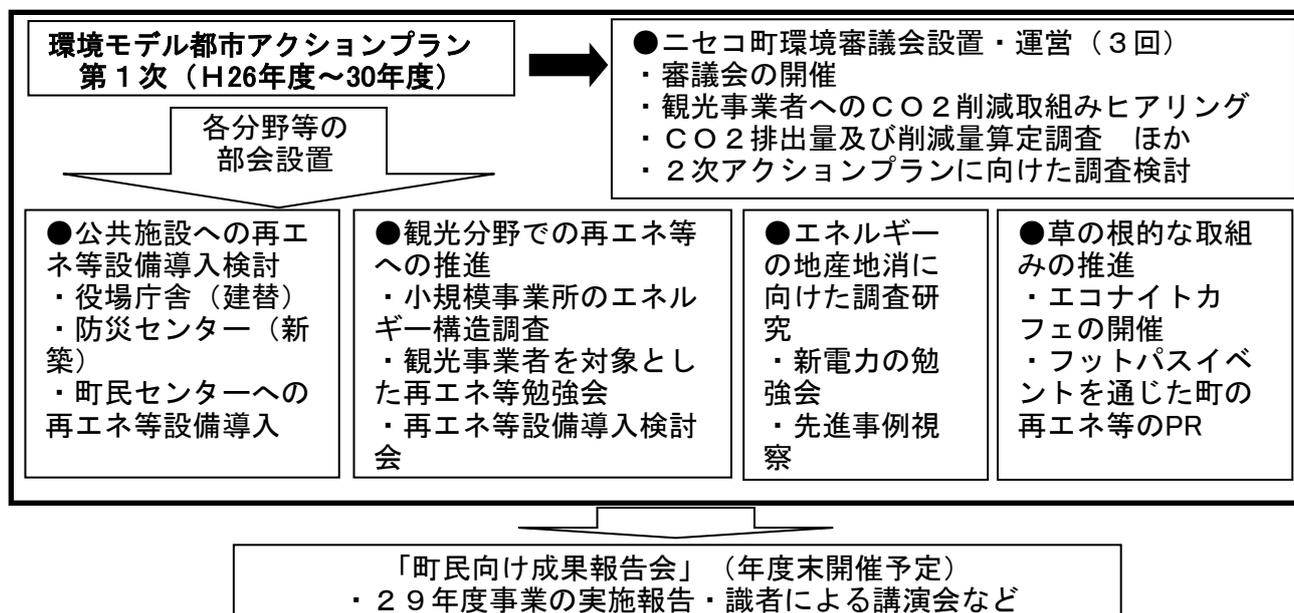
2050年度までのCO2削減の目標に向かって、再エネ等を最大限に活用し、低炭素化と持続的発展を両立する地域モデルの実現を先導していくことを目指す。

【補正内容】

- ・報酬 109千円(環境審議会委員報酬)
- ・報償費 200千円(成果報告会講師謝礼)
- ・旅費 560千円(環境審議委員費用弁償、新電力先進地視察4名)
- ・需用費 125千円(環境審議会お茶代、成果報告会チラシ印刷など)
- ・役務費 6千円(チラシ新聞折込手数料)
- ・委託料 19,000千円(業務委託料)

※財源として、経済産業省資源エネルギー庁の「エネルギー構造高度化・理解促進事業」申請中(10/10)

【事業全体のイメージ図】



【実施スケジュール】

項目	開始日	終了日	日数	平成 29 年度													
				4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
委託契約	7/下旬	2/28	210				プロポーザル審査会										
環境審議会			2							●		●					●
エネルギー構造調査			1									●					
観光事業者向け勉強会			2						●		●						
再エネ等設備導入現場説明会			1						●								
新電力勉強会			2								●			●			
新電力先進地視察			3日程									●					
エコナイトカフェ			3				●			●		●					
フットパスイベント			2						●								
成果報告会			1														●

なお、平成 31～35 年度の 5 年間の CO2 削減のための行動計画(アクションプラン)策定作業を平成 29 年度から 30 年度にかけて 2 カ年で行う予定。

その中で平成 29 年度の調査検討結果を踏まえて、平成 30 年度には公共施設(役場新庁舎・町民センターなど)への再エネ等の設備導入もすすめていく(予定)。